

## —5回目：困った行動への対応—

鳥取大学医学部 井上雅彦研究室

## 今日のメニュー

- 前回の復習(教え上手)
- 困った行動への対応
- ストラテジーシートの作成



## 1. 前回の復習



## まとめ：教えるときの工夫

- ① 援助をするときには、どの部分に援助が必要かをまず探してみる。
- ② 行動を分解することで、援助が必要なポイントを見つけやすくなる。
- ③ 子どもの様子を見ながら、ちょうどいい量の援助をする。
- ④ 子どもが一人でできるようになるように、少しずつ援助の量を減らしていく。

## ちょうどよい量の援助

- 必要以上の援助をしない
  - 少し待って様子を見てから援助をする
  - 援助の量は徐々に減らしていく
- 多すぎると指示待ちになったり、援助に頼りすぎたりする。
  - 少なすぎると失敗を繰り返してしまい、自信を失ってしまう。
  - 子どもに伴走しながら、タイミングを見てちょうどよい量の援助を出すことが大切！

## 2. 困った行動への対応



## これは困った行動？

- 独り言を言いながら歩く
- 外出時に靴下をはきたがらない
- 同じルートを通して園に行きたがる
- 積木ならべのような一人遊びにこだわる
- 食事中に立ち歩く
- 朝早くにお気に入りのテレビを見たがる
- すれ違う人をたたく
- 道を飛び出す
- 人の家に勝手に入って、冷蔵庫の中のものを食べる

## よく考えてみると…

- その行動は常に起こっているわけではないのでは？
- その行動が気になる人もいれば気にならない人もいるのでは？
- その行動は環境によっては望ましい行動になることもあるのでは？
- 人と違う変わった行動すべてが「困った行動」ではないのでは？

## もう一度考えてみよう

- 独り言を言いながら歩く
- 外出時に靴下をはきたがらない
- 同じルートを通して園に行きたがる
- 積木ならべのような一人遊びにこだわる

状況によっては問題となる場合もあるが、「変わった行動」=「問題」、「こだわり」=「問題」というわけではない。

- 食事中に立ち歩く
- 朝早くにお気に入りのテレビを見たがる

あるルールのもとでは問題行動となってしまう。個々にあわせてルールを変えると問題行動でなくなる。

- すれ違う人をたたく
- 道を飛び出す
- 人の家に勝手に入って、冷蔵庫の中のものを食べる

人を巻き込むこと、命にかかわるようなことなどは問題行動。周囲の人たちは困り、本人も社会参加を制限されかねないから。

## どんな行動が困った行動？

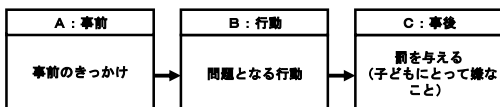
- 生命を脅かすもの
  - 道路への飛び出し
  - 異食
- 他人に迷惑をかけるもの
  - 他児をたたく
  - 暴言を吐く
  - 物を壊す
- 生活を妨げるもの
  - 決まった服しか着ない
  - 予定を変更がきかない
- 場面によるもの(常に問題ではない)
  - 大声を出す
  - 授業中に立ち歩く

## 困った行動

- 困った行動にはさまざまなレベルがある
- 本人が学ぶ機会を失ってしまう場合、生活が妨げられてしまう場合、周りの人に迷惑をかけてしまう場合には対応していく必要がある。
- 一人だけの判断ではなく、周囲の人たちの意見も参考に判断していくことが大切。

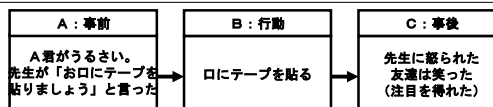
## 昔ながらの日本的な考え方

- 悪いことをすると罰を与える
  - 宿題を忘れてきたら廊下に立たされる
  - 成績が悪いと父親に正座させられる などなど

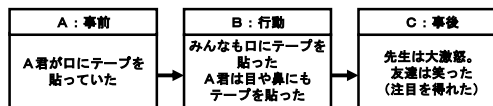


問題となる行動は減っていく

## 怒るだけでは対応できなかった例



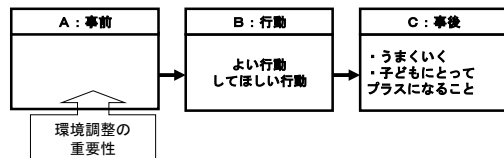
- 最初は言われた通りにしただけだったが、注目を得られたことによって、「テープを貼る」が「注目の要求」の機能にかわった



- A君はみんなが笑ったので大満足。
- どうして先生が怒るのが理解できない。

## 発達障害の子どもへの対応

- 発達障害の子に対しては悪いことに対して罰を与えることだけでは対応できないのが現状。
  - 親にたたかれたら友達をたたくようになる
  - 努力してもできないことも多い
- 環境調整など個々のケースで対応していく必要性。



## 連携体制

- 問題行動は一人で抱え込まずにチームで取り組むことが成功の秘訣。
- チーム全体で問題へ取り組み、統一した対応をおこなう。
- 絶対に悪者さがしはしない。
- 問題を先送りしない。
- 必ず記録をとるようにする。記録は指導や対応の効果をはかる物差し。
- 問題行動は子どもにとっては言葉のかわり。子どもの発するサインをくみとろう。

## 問題行動への対応方法

- ① 問題行動を具体化する
  - あいまいな表現でなく、具体的な表現で誰にでもわかるように。
- ② 問題行動の機能を考える
  - 問題行動は子どもの言葉のかわり。何らかの意味のある行動。
- ③ 対応方法を考える
  - ストラテジーシートを利用すると便利。

## 1. 具体的化する

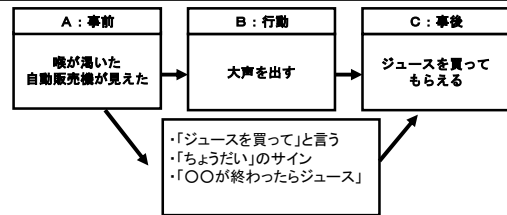
- 具体的な行動を記述する
  - 「パニックをおこす」→ テレビを消すと床に寝ころんで泣き叫ぶ
  - 「～しない」は行動ではない
    - 「片づけをしない」→ 片づけをするように声をかけても遊び続ける
- 抽象的な言葉やあいまいな言葉は使わない
  - 「乱暴な性格である」→ 滑り台で遊んでいるときに前にいるお友達をおす

## 2. 困った行動の機能を知る

- 困った行動が維持されるには意味(機能)がある

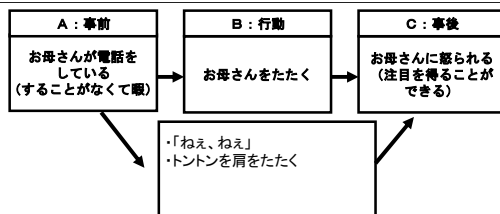
|  |
|--|
| ①「ものや活動の要求」の機能<br>何かしてほしい、何かをしたい       |
| ②「注目の要求」の機能<br>自分に興味をもってほしい、かまってほしい    |
| ③「逃避・回避」の機能<br>その状況が嫌、逃げ出したい、やりたくない    |
| ④「自己刺激(感覚)」の機能<br>退屈、自己充足              |
| ⑤「自己防衛」の機能<br>自分に自信がない、自信がないことを知られたくない |

## 「物や活動の要求」の機能



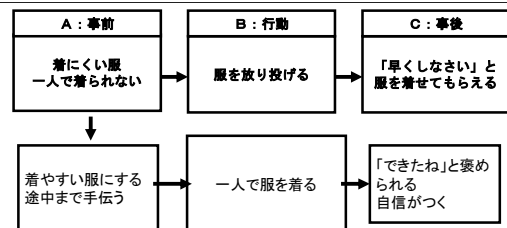
- 適切な要求の仕方を教える
- 事前に約束をするなど、見通しをもたせる
- お手伝いなどをしたあとのご褒美としてあたえる

## 「注目の要求」の機能



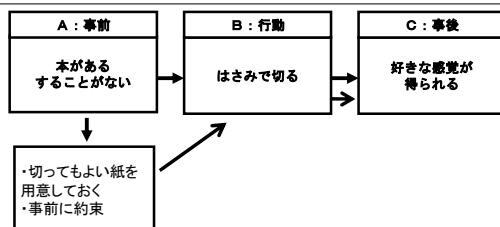
- 注意をひく別の方法を教える
- 適切な行動をしているときに注目する

## 「逃避・回避」の機能



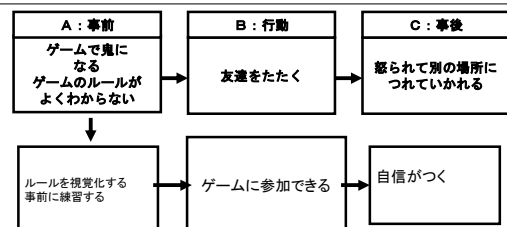
- 事前の状況の整備(課題のレベルや内容を調整、スケジュールによる見通しをもらせる、活動メニューの選択)
- 嫌なことに接する機会を減らす、少しずつ慣れさせる
- 機能的に等しい行動の指導(「いやだ」「教えて」)

## 「自己刺激(感覚)」の機能



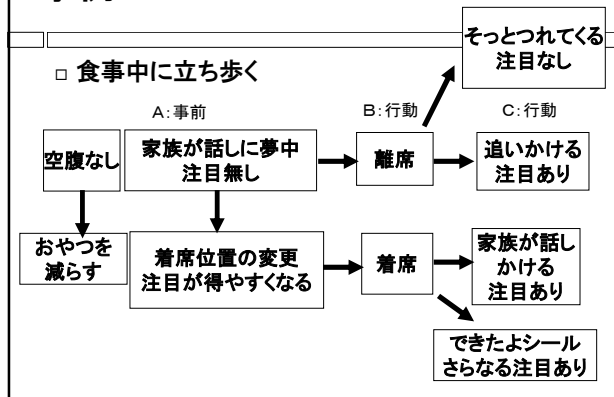
- 場所や対象を限定し、あらかじめ約束しておく。
- 同じ感覚刺激をとまなう、別の余暇活動を用意しておく。

## 「自己防衛」の機能

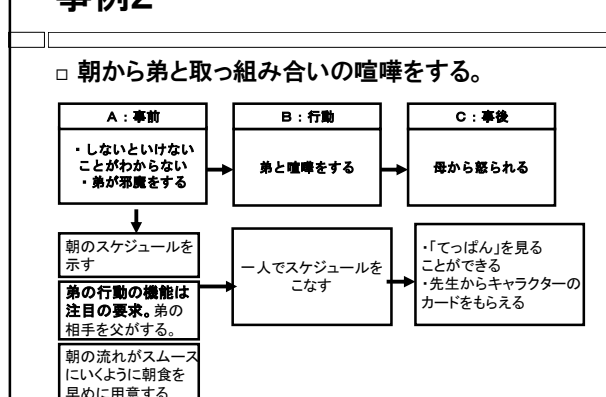


- 失敗をしないような工夫が必要。
- 自信を失わないようにすることがポイント。
- 知的に高いタイプの子は自己防衛が働くことが多い。

## 事例1



## 事例2



## 4. ストラテジーシートを練習しよう



## 事例1

Aちゃんは遊んでいるときにトイレにいきたそうな仕草(股を手でおさえる)をするため、先生がトイレに誘うと「トイレいかない」と言って遊び続けます。それでも股を手でおさえるため何度か誘っても行かず、しばらくするとおしっこをもらしてしまいます。おしっこをしてしまうと、仕方ないので先生はシャワー室に連れて行き、シャワーをして着替えをさせます。

## 事例2

- Bちゃんは外遊びが終わって教室に戻るときに、必ず「いやだ」と言って教室に戻ることができません。教室に戻る途中におもちゃを見るとおもちゃで遊び始めたり、水道をみると水遊びを始めてしまいます。

## 自分のストラテジーシートを作成してみよう

- 自分のクラスの子どもの問題行動をストラテジーシートに作成してみよう。
- ①まずは現状のABC分析から。
  - ②してほしい行動を記入。
  - ③それに対する事前調整にはどんな工夫ができる？
  - ④事後の対応は？

## 次回

- 次回は1月26日(水)16:00～です。
- ストラテジーシートを出来るところまでしてみよう。